

2022年度 第4回 JSR 編集委員会 議事録

日時：2022年12月19日（月）18時

場所：オンライン（Zoom）会議

出席：川口 善治（担当理事）、大島 寧（委員長）今城 靖明、竹内 大作、高畑 雅彦、茶園 昌明、出村 諭、二階堂 琢也、長谷 齊、福岡 宗良

長谷川 和宏（アドバイザー）

欠席：明田 浩司、石井 賢、鈴木 亨暢

杏林舎／鶴間、田村（記）

審議事項

■JSR バナー広告について

これまで企業に電話をかけるなどの募集を行ったが応募につながらないため、積極的な募集活動は不要と考えている旨報告された（川口担当理事）。

<委員からの意見>

- ・ 何社かに声掛けしたが企業からはバナーを載せても企業メリットにならないという反応である。
- ・ 冊子なら必ず見るので広告効果が期待できるが HP に載せた場合のクリック率が上がらない限り積極的な募集活動は難しい。
- ・ HP 広告掲載の方針があるため、企業にとって載せたい内容が制限される問題もある。

<決定事項>

積極的な募集活動等の対策は行わず現状のバナー広告で掲載してくれる企業様がいれば掲載する。

■JSR 投稿数・

投稿数・採択数について、以下報告された（大島委員長）。

<投稿数>

【一般投稿】

論文タイプ	2019	2020	2021	2022
原著	13	21	21	18
総説	2	0	1	1
症例報告	1	2	1	5
テクニカルノート	0	0	1	0
二次出版	0	0	3	0
調査報告	1	0	0	0
計	17	23	27	24

【依頼論文】

論文タイプ	2019	2020	2021	2022
原著	3	8	36	25
総説	2	1	2	0
症例報告	0	0	1	0
Editorial	2	4	4	3
計	7	13	43	28

- ・ 依頼論文の投稿数は昨年（2021）より少ない。昨年の増加は依頼数を増やしたことが影響したとすれば、今年はその効果が薄れている可能性がある。しかし一昨年（2020）よりは増えているため投稿数については特に問題はない。
- ・ 依頼論文の今年（2022）の依頼件数は 200 件、10 月から投稿が増えており来年に続き投稿される可能性もある（杏林舎）。
- ・ 依頼論文の執筆依頼は、JSSR 学会の抄録から点数の高いトップ 200 の演者を対象としたがその中で現状（28 編）しか投稿されていない（川口担当理事）。

<採択数>

【一般投稿】

論文タイプ	2019	2020	2021	2022
原著	11	15	15	10
総説	2	0	1	1
症例報告	1	2	1	3
テクニカルノート	0	0	0	0
二次出版	0	0	2	0
調査報告	0	1	0	0
採用数	14	18	19	14
採択率	88%	90%	90%	93%

【依頼原稿】

論文タイプ	2019	2020	2021	2022
原著	3	7	34	7
総説	2	1	2	0
症例報告	0	0	1	0
Editorial	2	4	4	3
採用数	7	12	41	10
採択率	100%	86%	95%	91%

- ・ 採択率は 9 割を超え採択を前提として審査されている。

■二重投稿について

茶園先生から経緯が報告され、二重投稿に関する情報共有および対策検討を行った。

<経緯>

- ・ 新規領域であり過去同じような研究をされている査読者を 2 名アサインした。
- ・ このうち査読者 1 名が領域に精通しており著者と知人関係にあったことから、査読者から著者へ連絡し、著者自ら辞退申し出があった。
- ・ その査読者から英語論文との二重投稿の恐れがあると報告を受けた。
- ・ 二重投稿の疑いの指摘を受けて大島委員長、川口担当理事へ相談した。
- ・ 英文論文は現在投稿中（未出版）であった。

<委員からの意見>

- ・ 投稿画面に二重投稿が無いチェックする設問が必須項目として設けられているため、今回の著者はチェックを行っているはずだが、設問内容に答えた際に読み飛ばしてしまったのか意図は不明である。
- ・ 投稿時に設問内容を深く読まずにチェックしてしまう可能性もある。
- ・ 万一二重投稿が公になった場合は著者の学問的ステータスに影響を及ぼすこととなる

ため、未然に防ぐ対策は検討する必要がある。

- ・ 若い先生は出版倫理問題について理解されていないことが多く、特に言語を問わず同じ内容であれば二重投稿にあたることが浸透していない。そのための周知対策を検討すべきである（長谷川アドバイザー）。
- ・ 二重投稿については以前から議論を重ねて現在の規定を作成しているが、周知が難しい問題である。原著論文についてはオリジナルであることが大事であり、改めて二重投稿の基準を明確にし、どのように会員に周知するか、次の理事会に諮ることとする。（川口担当理事）。
- ・ 二重投稿のペナルティーには何があるか質問があった。ジャーナルとしてのペナルティーでは、著者への投稿禁止措置、施設への通知、一般公表があるが、出版済みかどうかや違反の重さによってどこまでの処分か決定いただくことになる（杏林舎）。
- ・ 違反行為に対しては、出版社側からの措置の他に、学会側からの処罰を受けることとなるであろう（長谷川アドバイザー）。

<関連学会の状況>

- ・ 事務局ではチェックを行っていないので JSR 編集委員長に負担がかかっていることを懸念している。投稿者本人も倫理違反への認識が薄いことから気づかずに投稿してしまうことは当学会でも起こりうることである（長谷委員）。
- ・ 側弯症学会でも数年前に出版後に取り下げた論文が 1 件あったが。二重投稿の意識が著者や編集側によっても異なるので判断が難しい（出村委員）。

<決定事項>

- ・ 問題を未然に防げたため著者への事情聴取は行わない。
- ・ 理事会に諮る（川口担当理事）。二重投稿の基準を明確にし会員に周知方法について検討する。
- ・ 投稿システムの画面上で著者がチェックする項目の見直しを行う。著者の読み飛ばしを防ぐためダイレクトな表現に変え表示順を変える等の修正案を作成する（杏林舎）。

■評議員の査読諾否について

SSRR では評議員による査読は原則辞退不可となっている。JSR はどのような方針とするか審議した。

<委員からの意見>

- ・ 複数の評議員から何度も断られている状況（複数委員）。SSRR では不可としているが JSR では問わないことに疑問である。
- ・ SSRR でも連動しているので、JSR も同じ動きとして辞退不可とするのが良い。

- ・ JSR も原則辞退不可という事は、査読依頼のレターにも書かれていないので、別途アナウンスメントをするのが良い。
- ・ 問題はどのように査読責任を認識いただくかが重要。SSRR でも辞退する人がいるが JSR だから辞退する事は許されない。しかし辞退した評議員の名前を挙げるなど公表できないため、辞退した人に対し査読責任をお願いする文書提出などのシステムを検討したい。また評議員への査読に対する責任感を醸成させる告知を行うのが良い。(川口担当理事)。
- ・ 学会の会則の中に評議員の査読責任は必須の義務として含まれているはずである(複数学会)。

<決定事項>

- ・ SSRR 編集委員会で審議し、JSR も同じ方針を取る。
- ・ 理事会へ報告する(川口担当理事)。評議員/会員への周知、辞退者への連絡手段、査読義務の会則も含め確認する。
- ・ 辞退件数がわかる査読者リストを年に一度編集委員会で共有する(杏林舎)。
- ・ 委員へ提供している査読者リストは、これまで投稿査読システムからダウンロード出来ていたが個人情報保護の観点で公開が制限されているため、システム上の査読者リストへのリンク機能を削除する(杏林舎)。
- ・ 査読辞退者が評議員かどうかの確認は継続審議とする。

■歴代 JSR 優秀演題賞の掲載

歴代の受賞者を長く称える意味で HP 上に表示することが提案された(川口担当理事)。杏林舎より他誌の掲載例を紹介し仕様イメージなどを確認した。

<決定事項>

- ・ JSR HP に歴代の受賞者を掲載する。
- ・ HP への掲載内容、デザイン案を作成し後日確認する(杏林舎)。

■その他

関連学会の投稿システム(ScholarOne)導入についての各学会の進捗を確認した。前回の見積提出依頼、導入を検討されているかどうか意見を伺った。

<委員からの意見>

- ・ システムの導入のみで事務局員および査読員はこれまで通りであればメリットがある

のか質問を受けているので、事務局側には進展があれば報告するとしている（東海脊椎
脊髄病研究会）

- ・ 報告のみで具体的な動きはない。メリットとしてはシステム利用することで二重投稿を
防げる可能性はあると感じている（西日本脊椎研究会）

以上